



## 私の視察した歐米の幼稚園教育 (三)

堀 七 藏

### 六

既に述べたやうに歐米諸國に於ける家庭生活の基調が夫婦本位にあつて、我が國の如く家族本位ではないから、いろ／＼と異つた事柄が生じて居る譯で、育兒に於ても根本的に異ると思はれる現象があります。それで先づ家庭生活の成立、即ち結婚について大要を説明する必要があるとせう。我が國では結婚は本人同志が本位といふよりも、家族本位といつた方が適切であります。お嫁さんを貰ふのは何々家でありまして某男が某女と結婚するのではなく、何家が某女を貰ふといつた意味が強い。全然本人同志の意志を無視して何家が何家の娘を貰ふといつた極端な場合もあります。左程でなくとも本人同志は相愛してゐても、お家のためにならぬから結婚させぬとか、離婚させるとかいふやうな場合がある。また親達が理解することが、本人同志の理解よりも先立ちて尊重せられるのも、家族制度の特色であり長

所であります。しかし歐米では何々家といふことは殆ど考量せられず、本人同志が本位となるのでありますから、結婚の方法様式も相應の順序手續となります。英國や獨逸などでは相當何々家と云ふ觀念の強く現はれてゐる場合もないが、米國などでは全然ないといつてよいのであります。それで茲に獨逸に於ける結婚の方法を例示して家庭の成立を考へて見ませう。

獨逸の良家の結婚。これは二十餘年も獨逸に住み、ハンブルグの美術館の東洋部長をつとめて居られる原博士。原震吉博士は獨逸婦人と結婚し、獨逸に歸化して居られる方でありますから獨逸に於ける結婚の狀況はよく御存じであります。この原博士が特に私の質問に答へられた所でありますから、二年や三年歐米に生活してゐても分らぬ結婚について比較的正確な知識と考へて差支ないと思ひます。獨逸に於ける結婚は中々嚴格なもので、日本で考へられる所謂自由結婚とは大に異なる。先づ子女を持つ親は如何にして娘の爲によき婿を得させるかに少からず苦心するのであります。娘が適當な青年男子と理解し合ふ機會をつくることに少からぬ苦心をいたします。年頃の娘さんが自分で結婚すべき男を探して歩くことは出来ませんから、娘を持つ親は毎年十月から翌年三月頃までにいろ／＼の名義をつけて娘の婿に適當するやうな青年男子を家庭に招くのであります。單に青年の男子だけといふ譯には行きませんから、娘のお友達をも招き、また親達をも招いて娘が青年達を知る機會をつくります。親は娘が適當な青年を知り、相互に理解し合ふ機會を與へるのでありますが、時には招かれた青年男女によく理解が出来て結

婚し、却つて肝心な自分の娘さんがよく理解せられず、従つて結婚せずして取殘される場合も少くないのであります。兎に角親は娘さんが適當な青年と相近づく機會をつくつてやり、娘さんは自分で青年をさがすのであります。青年も妻とすべき女を探してゐる譯で、相互に理解し合ふと男から結婚を申込みのてあります。所がこの結婚申込みは青年には一大難事であり、充分自分に氣があるやうに見えるから結婚を申込みと案外にも肘鐵砲を喰ふ場合が少くない。これなら大丈夫と見當がつかぬとメツタに結婚を申込みことが出来ないのてあります。それこそお見當ちがひで、ハネられるとよい恥をかく譯でありますから結婚を申込みには青年に中々覺悟を要します。さて結婚を申込みにしても他人のゐない公園などで内密に申込みことは一切出來ず、また手紙で申込みことも出来ないのてあります。二十一歳未満までは子女へ來た手紙は兩親に於て勝手に開封することが出來ますから、手紙で申込みと親達に見つかる心配があり、また卑怯だとして排斥せられますから、青年は女に對し適當な機會、女及び女の親達から嘲笑せられないやうな機會に結婚を申込みねばなりません。尤もこの機會も兩親の方で成るべくつくて呉れますが、眞正な正々堂々の機會に於て男から女の方へ結婚を申込みのてあります。幸に女が異議がなくばそのことを女から母親に話をする。母親は父親に話をしてその結婚の良否を決定するのであります。これは家族のためではなく、本人の爲によいか惡いか適するか否かを決定するので、本人同志の勝手ではありません。尤も年齢が滿二十一歳以上であれば、兩親の承諾を得ずとも結婚は出來ますが、

二十一歳以下では必ず両親の承諾を得ねばならぬ。満二十一歳以上でも普通は両親の承認を求めるのであります。両親が満足に承諾すると女の方から結婚を申込んだ男に返事をいたします。すると青年は正式に結婚を申込むのであります。初めのは内々女及びその親達の意志を確めたのであるが、決定的のものではありません。男から更に正式の手續で結婚を申込むのでありますが、之が青年の一生にとつて最大難事であります。大體の意向は分つてゐるものゝ正式結婚申込みによつて、女の親に檢定せられるからであります。シルクハットにフロックコートで結婚を申込んだ。女の父親の面前に出ねばなりません。すると女の父親は知つてゐて知らぬ顔をなし、

「お前さんは私の娘を一生養つて家庭を持つことが出来ますか。どれ位収入がありますか。」  
と高飛車に問ふのであります。このとき、

「エー、ソノ、何で」などとぐづぐずしたり、また

「父親にお金がありますから」などといへば、十中七八までは結婚がだめになります。親の財産は何時なくなるか當にならぬから、要は青年が獨立して一家を持つだけの力量がなくては結婚出来ないのあります。

結婚申込が成功すると、茲にエンゲージ(婚約)が行はれます。このエンゲージの費用は女の親が一切支辨することになつてゐて、男女双方の親戚知人等にエンゲージが成立したことを披露し、更に新聞にも

廣告するのであります。この時からエンゲージリングをはめるのであります。そしてこの指環は北獨逸では左手の指にはめ、南獨逸では右手の指にはめる習慣になつてゐると申します。

さてエンデージが出来ても青年男女の自由な交際は許されません。娘さんの方に伯母さんなり何なり確かな後見人がついてゐて、男女が交際するのであります。これはよく日本で誤解せられてゐるが、若し男女が勝手自由に交際してゐて若し結婚が不成立となれば、娘に傷がつくからであります。青年男女二人自由に散歩することも許さないのが普通であります。かくて二人が十分理解した上に結婚式を舉行するのであります。結婚式を舉げるには、三週間前にエンゲージをした二人と證人二人とが戸籍役場に出頭して届出るのであります。この時結婚の法律を読みませ、異議なきことをサイン（證印を押すと同様であります）して、始めて女は男の姓を名のことになります。このときサインしたペンは必ず新しいものを使用する習慣で、一生の記念、結婚の記念としてそのペンを新夫婦が貰つて来る。その代り二マークなり三マークなり、箱に投じてペン代とする譯であります。役場でサインした後、直に教會に行き結婚の時日を決定するのであります。すると教會では何某と何某とが何日何時にどの教會で結婚式を舉げるが、若し異議があるものは申出でよと三週間も男の住む町に張り出し、更に新聞にも廣告するのだ想てあります。若し男に情婦があれば、異議の申出があり、結婚が不成立となりますが異議の申出がないとこの結婚に異議者がないものとして、茲に始めて牧師司會の下に結婚式が舉行せられます。結

婚式では左手の指環が右手に移される（南獨逸では右手の指環が左手に移されます）のでありますが、その前に妻が夫に對して守るべき條項を牧師が數え上げます。そして女はそれに異議のないことを誓ふのでありますが、妻が夫に對して守るべき條項中には夫に對して奴隸といふ意味の言葉があります。それで獨逸では男女同權ではなく、男尊女卑では語弊があるが、兎に角夫は一步先きて、妻は之に従ふべきものといふことになつてゐます。女は弱きものとして夫が妻をいたはるし、妻は夫に従ひ夫を助けてその天分を完ふするといふ精神で、男女共人格としては同等であるが、家庭生活に於てはそれ〴〵天分を守るといふことが原則となつてゐるのであります。かくて結婚するときには一切の家具・什器・寢具等は凡て女が準備するのが本體で、男子は只身體一つで行けばよいのであります。その代り結婚後の生活は夫が一切を支へる義務があり、妻は夫の保健のために盡力することになつて居ります。これが獨逸に於ける正式の結婚であります。英國でも米國でも多少之と異なる所もありますが、根本の精神は殆ど同様であるといつてよいのであります。只米國は過去六七十年間に發展した國でありヨーロッパ各國よりの移民がそれ〴〵の習慣を基調としてゐるために統一した様式がなく、且つ萬事簡便で結婚も至極簡單であります。日本で所謂自由結婚といふのは主としてアメリカ式の簡單な野合に近いものであります。

七

家庭生活の成立は以上の如き有様であります。歐米諸國では近時著しく結婚難となつた様に見受け

られます。第二十世紀の初十年間の調査によると、獨逸の成長せる婦人の約三分の一は家外勞働者であり、その内十六歳より三十歳までの家外勞働婦人の内、未婚者が九割二分である。また三十歳より五十歳までの家外勞働婦人の内、既婚者は三割八分、五十歳以上では寡婦が五割七分を占めてゐたのであります。下級社會では三十歳以上にならぬと結婚出来ないし、三十歳以上になつても獨身生活をせねばならぬといふのが大戰後一層甚だしくなつてゐます。私が獨逸滯在中特に注意して觀るとベルリンなどで市内電車に乗つてゐる男女で指環をはめてゐるものが甚だ少數でありますし我が國の中學校高等女學校に相當する學校の男女教師で、結婚の指環をはめてゐるものが殆どない。校長始め殆ど獨身生活者であると考えられる位であります。ハンブルグなどでは結婚すれば教職をやめねばならぬことになつて居ります。それは結婚すれば必ず夫が扶養するのであるから、獨身生活をなしてゐるものに職を得させるためであります。従つてハンブルグでは女の教員は中等學校でも小學校でも悉く獨身者であります。獨逸は目下二百萬人の失業者があると申しますし、プロシヤだけで小學校教員の失業者が三萬五千もあるといふのでありますから結婚難も想像に難くはないのであります。小學校卒業の女子は一月の給料が五十マークから六十マーク。日本金の廿五圓から三十圓であります。またタイピストでは一ヶ月百五十マークより二百マーク。日本金の七十五圓から百圓位のものだとはハンブルグ横濱正金在勤の方の話であります。それで女子は二十一歳になれば獨立生活をせねばならぬから、中々結婚どころではなく、日々の生活に

も困るといふ生活状態であります。ハンブルグ美術館に勤めてゐる或るドクターは殆ど無給に近い手當で奉職してゐるので、エンゲージをした愛人があるがお金がないので結婚が出来ず、兩方共稼ぎをやつてゐる有様であります。是等は一二の例にすぎませんが、以て大勢を察することが出来ます。

英國は昨年の話では百萬人の失業者を有するといふ位であり、第二十世紀の初十年間の調べによると英國工場労働者の二分の一は女子であるといふことでありますから今日も殆ど同様かそれ以上であります。それで男女共に結婚難で、男は四五十になつても結婚せず、女子もオールドミスが甚だ多いのであります。また佛蘭西では目下殆ど失業者がないが伊太利、西班牙等からフランスに入込んでゐるものが多く、矢張生活難の状態にありますから結婚難は他と同様であります。米國は土地が廣く面積が我が國に二十倍し、人口は僅かに二倍にも達しない。加ふるに天然の資源が豊富でありますから失業者はないのでありますし、給料なども甚だ多いのであります。タイピストの初任が一週十三ドル乃至十七ドル、更に熟練すると一週十八ドル乃至二十七ドル。セクリタリーは一週二十五ドルより四十ドル。ニューヨーク州の女子の給料平均が一週十八ドルで、日本金の三十六圓以上であります。また公立學校の女教師は一週三十ドル乃至五十ドルであります。それで米國では公立學校の教師が男子十二萬七千に對し女子は六十三萬（一千九百二十四年の調査）であります。男女共に俸給が我が國に比べると桁違位に多いのでありますが、生活費が高みますから矢張り男子は結婚して束縛を受けることを好まず、女子は亦獨

身生活を守るものが多いのであります。そして放縱な生活を送つてゐることは豫想以上に甚だしいのであります。勿論結婚法も簡単に、男女兩人が結婚の許可書を出頭して受取ればよいのであります。茲に參考として米國に於ける結婚、離婚の統計を表示いたしませう。

年	總人口	結婚數	離婚數	人口千人に付	
				結婚	離婚
1890	62,947,714	548,779	33,197	8.7	0.53
1900	75,994,575	684,981	55,502	9.0	0.73
1906	85,837,372	853,290	72,062	10.2	0.84
1916	100,757,735	1,040,684	112,036	10.7	1.13
1922	109,326,982	1,129,045	148,815	10.3	1.36
1924	112,269,440	1,178,212	170,952	10.5	1.52

この表を見ると結婚數は多少増加してゐますが、離婚數が漸次増加してゐることが明白であります。我が國の結婚離婚を之と對照いたしませうか。我が國で大正九年（一九二〇年）には結婚が人口一千に付九・七六で離婚が一千人に付〇・九九であります。それ以前には離婚が甚だ多く明治十六年には人口千人に付三・三九であつたが、漸次減少し大正八年には一・〇一となり、大正九年に一人以下となつたのであ

ります。而して大正十一年の離婚が人口一千人に付〇・九二、大正十二年が〇・八八、十三年も〇・八八であるが、婚姻後離婚に至る迄の期間を見ると二年までが一割九分を占めて最も多く、五年内で離婚するものの割合が六割五分であります。大體に於て我が國の離婚は婚姻後數年の短期間内に行はれますが、米國などは一寸變つてゐます。米國では一年以下の離婚が四・六％、一年が七・七％、二年が八・二％、三年が九・二％、四年が九・三％、五年が七・一％、六年が六・四％、七年が五・五％、八年が四・五％、九年が三・五％、十年が三・七％、十一年が三・四％、十二年が三・〇％、十三年が二・六％、十四年が二・三％、十五年が二・〇％、十六年が一・九％、十七年が一・七％、十八年が一・五％、十九年が一・四％、年二十年が一・三％、二十一年以上が八・九％であります。結婚後三年四年に離婚が多いか、五年以内のものは四六・〇、即四割六分で我が國の六割五分とは大分開があります。

## 八

大正十五年七月廿日ロンドンのスタンフォード・ヒルに近い學校參觀に出かけた序に、アムハースト公園にある救世軍の婦人社會事業本部を訪問しました。コットランドと稱する家がそれで、入ると案内者が出て來て、オフィツサアの室に通されたのであります。正服をつけたオフィツサアが來て愛想よく接待し、一々案内の勞を取られたのは今も尙ほ感謝してゐる所であります。後できけば兩親が日本に長く住み、このオフィツサーも女學校卒業後暫く日本に居られた。そして一家族日本服の寫眞がある位であ

ります。

先づ第一に見たのが嬰兒室で、搖籃を兼ねた寢台。そしてクロースの防水布で取はづしが出来、容易に洗濯消毒が出来るやうになつてゐます。その寢臺に生れて三週間位から五六ヶ月（大きい兒は十ヶ月のゐます。そして床の上にあり木の枠の中にゐて立つてゐます）の嬰兒が二十人以上もゐます。お腹がすいたと見えて泣いてゐるものがあり鼻を鳴してゐるものがあります。また心地よく眠つてゐるものもあります。是等の嬰兒は凡て結婚しないで出来た子供、父親不明の子供で、日本の所謂孤兒ではありませんが、ロンドンでは孤兒と申しますものであります。不幸な子供ではあるが、この本部にゐる有様は實に涙のこぼれる位よい取扱を受けてゐます。丁度母親達が食事中であるが、食後それ／＼その兒に哺乳するので、人工哺乳は成るべくさせないで、母子の愛を密接ならしめる主義であります。それから幼兒の運動をなさしむる芝生、非常に廣いといふのではないが、奇麗な芝生で周圍に大きな樹木が密林をなしてゐるから至極よいガーデンであります。また硝子張の日光浴、空氣浴をなさしめる室がその横になつて籐の嬰兒籠があります。臺の上に置きまたその儘で運ぶことが出来るので、至極便宜なものであります。

次に母親達が職業を授かる室、主として裁縫、編物であります。これは嬰兒の室と著しく遠くはないが兎に角離れた室で、嬰兒につき切りにするやうなことを避けてあります。食堂は是等の婦人が座する

には勿體ない位で、一方が窓で樹木の茂つた庭を眺め、一方には料理した食物が運ばれて直に給仕せられ得る設備になつてゐます。どの室にも「愛は神なり」といふやうな文句が額として裝飾してあります。

二階に昇るとオフィツサーの寢室や居間もあり、またナースの寢室や居間もあります。それ／＼に應じた設備がしてあり誠にすみ心地がよいやうに見受けました。しかし婦人ホームとしての寢室は申分がない。大きな室には寢臺が八臺から十臺もあり、その横に必ず嬰兒の寢臺があつて夜中でも嬰兒を看護し得るやうになつてゐます。これはナーセリーカレッヂなどに預けられた子供達よりも母親の愛に浴することが出来るので、どんなに幸福であるかと思はれました。母親もまた之が兒に對する愛を助長するにはこの方法でなくてはならぬ。父なき子を産放しにして愛育せぬやうでは全く禽獸にも劣るのであります。英國の家庭に限らないが、世界各国産放し主義が進歩したものの如く考へられてゐることは非常な誤謬でありませう。成程夫婦本位の家庭で親が勝手に行動するには産放しは便宜でもあらうが、かくては眞に親子の愛は養はれ得る筈のものでありません。

それから婦人の浴室があり、嬰兒の浴室があり、それ／＼相當した設備がしてあります。これが二階と三階とであります。更に地下室に行きますと一切のものを洗濯する室があり、料理場があり、また食品貯藏室があります。殊に食品貯藏室は四壁をコンクリートとし多くの棚があり、砂糖・鹽等はそれ／＼金屬罐に入れて保存してあるので、普通のハウス以上のよい設備であります。洗濯室も料理場も婦人の

作業で、一週間交替で作業してハウスメイドの職の練習をする譯であります。一定の職業がないために兎角墮落するので、資本を要せぬ内職をなす結果救助せられる婦人達でありますから、特にハウスメイドとしての職を授けるのであります。マザーホスピタルでお産をして二週間か三週間経過した婦人がここに移され、一定の職業を修得し、所謂授産せられて社會に活動し得るやうになすのがこの本部の仕事であります。別に人口から離れて入ることの出来る室があつて三十人位の座席が設けてあります。また別にオフィツサの寢室があり、その横に三四の寢臺があつて世を悲觀して自殺せんとするが如きあはれむべき婦人を暫く收容して感化するやうになってゐます。要するにこの社會事業本部は生活に疲れた婦人の救済せられるところで、その設備は誠に完全なものであります。ここに棲めば再び荒き社會に出てて生活する勇氣を缺きはせぬかと思はれる位に設備が完全してゐます。

## 九

次にマザーホスピタルを參觀したる模様を御紹介いたします。救世軍社會事業本部の親切なオフィツサーに伴はれて救世軍本部に行き、そこで別の婦人に案内せられてマザーホスピタルに行きました。これは救世軍の婦人産院であります。私の如き男子が見るべき所でないかも知れないが案内せられて病院内を一覧することが出来たのは妙といへば妙な譯であります。私は今まで病院を多く見たことがないから分らないが、この婦人産院が實に完備したものだと思つて驚いたのであります。皆さん

に病院のことを深入して説明する必要もなし、私にはその説明も出来ませんが、施療室の寫眞を口繪として掲げますからよく御覽なさると直に分りませう。

眞中に下つてゐるのが電燈でその下のが手術臺でせう。手術臺は外來の患者にもお産をさせる所で、その横にクロロホルムで魔酔させる室があつて臺共に移動してこの室に運ぶことは勿論であります。また消毒設備などが非常に完全に行はれるやうになってゐます。婦人、殊にマザーになる病人を取扱ふのであるから消毒などは非常に肝要でありませう。兎に角この病院で一九二五一年中に生れた嬰兒が一三二〇人の多きに及んでゐます。ザット一日平均三人位は生れてゐる譯であります。

それから産後の婦人の寢室を見ました。これも説明するよりも寫眞がよいのであります。マザーホスピタルの一つのブロックの室内を示すものであります。寢臺が母親の臥してゐるものでその横になる小さな寢臺が嬰兒のものであります。椅子は看護婦がかけるのであります。換氣・採光・採暖の設備が十分である上に各ブロック(寮)にはそれ／＼草花や額で氣持よく裝飾せられてゐます。そしてバスルーム(浴室)もあり中々に完備したものであります。或るブロックには産後二日又は三日の婦人が安眠して居りその横には嬰兒がスヤ／＼と眠つてゐるのも見ました。天國にある夢でも見てゐるのではないかと思はれる位であります。一寸離れた所に小さなチャーチがある腰掛があり説教する卓がある外簡單な設備であります。しかし浮世の荒波にもまれた婦人を救済するには非常に必要な殿堂であります。更に洗

濯所を見たが病院の一切のものを洗濯する所であるから中々に大仕掛であります。回轉釜で煮て遠心棒で絞り熱蒸氣の通ぜる圓柱上を移動する乾燥する。それを直に鰻かけて仕上をなすもので四人位の婦人で全體の仕事に分業でやつてゐます。またキッチンルーム(料理場)は大きなガス器具が三臺もあり洗場と調理場とを區別し病人の食物、看護婦保母練習生一切の食物をつくり之を各寮に大きな食器で分ち各寮では更に之を溫めまたは分配するやうに手を加へ窓を通じて隣の食堂に出し各テーブルに分配給仕するといふ方法であります。それで各寮はそれ〴〵一のハウスをなすもので食堂は寮の大小に應じ相當した廣さと設備とを有し氣持よく出來てゐると思はれました。

保母練習學校が附屬してゐるから講義室もありナースの室、生徒の室、ドクターの室等相當に異るが何れも完全すぎる位によく出來て居ります。

